



2024年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2023年10月12日

上場会社名 株式会社東天紅 上場取引所 東
コード番号 8181 URL <https://www.totenko.co.jp>
代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)小泉 和久
問合せ先責任者 (役職名)取締役管理部長 (氏名)佐藤 昇 (TEL)03(3828)6272
四半期報告書提出予定日 2023年10月13日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年2月期第2四半期の業績 (2023年3月1日~2023年8月31日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年2月期第2四半期	2,223	44.6	120	—	104	—	△191	—
2023年2月期第2四半期	1,537	98.1	△451	—	△329	—	△456	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年2月期第2四半期	△74.71	—
2023年2月期第2四半期	△177.56	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年2月期第2四半期	10,729	6,141	57.2
2023年2月期	10,759	6,321	58.8

(参考) 自己資本 2024年2月期第2四半期 6,141百万円 2023年2月期 6,321百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年2月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2024年2月期	—	0.00	—	—	—
2024年2月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無
期末の配当につきましては、今後、業績の動向を勘案して決定してまいります。

3. 2024年2月期の業績予想 (2023年3月1日~2024年2月29日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,500	21.5	180	—	150	—	△160	—	△62.30

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年2月期2Q	2,572,871株	2023年2月期	2,572,871株
② 期末自己株式数	2024年2月期2Q	4,544株	2023年2月期	4,544株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年2月期2Q	2,568,327株	2023年2月期2Q	2,568,329株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	8
(重要な後発事象)	9
3. その他	9
継続企業の前提に関する重要事象等	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の感染法上の位置付けが第5類へと引き下げられたことにより、コロナ禍による社会経済活動への制約がほぼ解消され、内需を中心に景気は緩やかな回復基調を維持しました。

外食産業におきましても、行動制限の緩和により国内及びインバウンド需要に回復の兆しが見られておりますが、原材料費や光熱費の急激な高騰及び慢性的な人手不足等、依然として厳しい経営環境が続き、今後の経済活動も不透明な状況で推移しております。

このような事業環境のなか、当社は「食」に関わる企業として安心・安全な商品をお客様に提供することで企業価値の向上、黒字化を目指し業績の回復に邁進してまいりました。

まず営業面ではコロナ禍以降取り組んでいるWEB予約の強化をさらに推し進め、 Grill・小個室宴会を中心に積極的な販促活動を実施してまいりました。

宴会につきましては新型コロナウイルス第5類移行に伴い、法人宴会や各種中小団体宴会の動きが活発になることを予想し、春先からお得意先様や過去の実績顧客またコロナ禍にてキャンセルになったお客様に対して様々な方法にてアプローチを実施いたしました。

その結果、春の歓送迎会からご利用が増え、新型コロナウイルス第5類移行後はさらに多くの宴席を獲得することができ昨年度を上回る実績を上げることができました。

さらにECサイトでは季節ごとに「おうちで東天紅」の提案をすると共に、新規顧客獲得策として毎月15日を「東天紅の日」とし特典を設け積極的に販促を実施いたしました。

また、管理面においては、経営資源の選択と集中を推し進め、不採算店舗の撤退などを鋭意進めると共に、本部から店舗への応援体制を強化し、効率的に取り組んでまいりました。

結果として、当第2四半期累計期間の売上高は、前年同四半期比44.6%増の22億2,337万円、営業利益は1億2,095万円（前年同四半期は営業損失4億5,192万円）、経常利益は1億419万円（前年同四半期は経常損失3億2,929万円）となりました。また、11月に閉鎖予定の千葉スカイウインドウズ東天紅に係る減損損失2億8,091万円を計上した結果、四半期純損失は1億9,187万円（前年同四半期は四半期純損失4億5,602万円）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

①飲食業

飲食業におきましては、上記の理由により、売上高は前年同四半期比47.1%増の21億3,014万円、営業利益は7,931万円（前年同四半期は営業損失4億7,562万円）となりました。

②賃貸業

賃貸業におきましては、前年同期並みで推移しており売上高は3.5%増の9,323万円、営業利益は75.7%増の4,163万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産・負債及び純資産の状況)

当第2四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べ3,031万円減少いたしました。

これは主に、新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行等も有り、企業や団体等によるお集まりに回復の兆しが見られたことなどにより現金及び預金が8,478万円増加、店舗閉鎖による固定資産からの振替により、流動資産その他が1億1,069万円増加したことなどにより、流動資産が1億7,674万円の増加、固定資産が減価償却費の計上及び差入保証金を流動資産その他に振替したことなどにより2億706万円減少したことなどによります。

負債は、前事業年度末に比べ1億4,949万円増加いたしました。

これは主に、店舗閉鎖による資産除去債務の計上等によるものであります。

純資産は、前事業年度末に比べ1億7,981万円減少いたしました。

これは主に、四半期純損失1億9,187万円の計上等によるものであります。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は8億1,206万円となり、前事業年度末と比較して8,478万円の増加となりました。

これは税引前四半期純損失1億8,513万円の計上、店舗閉鎖による減損損失並びに減価償却費の計上等によるものであります。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

営業活動の結果得られた資金は8,170万円となりました(前年同四半期は2億7,001万円の支出)。

これは主に税引前四半期純損失の計上、店舗閉鎖による減損損失並びに減価償却費の計上等によるものであります。

投資活動により使用した資金は1,696万円となりました(前年同四半期は530万円の支出)。

これは主に店舗閉鎖による撤退費用などによるものであります。

財務活動により得られた資金は2,004万円となりました(前年同四半期は3億1,378万円の収入)。

これは主に借入れによる収入によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、本日開示しております「第2四半期業績予想と実績値との差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年2月28日)	当第2四半期会計期間 (2023年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	727,284	812,069
売掛金	241,476	228,249
商品及び製品	7,544	6,149
原材料及び貯蔵品	45,205	49,014
前払費用	34,185	26,263
その他	7,896	118,594
貸倒引当金	△300	△300
流動資産合計	1,063,293	1,240,041
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	3,763,806	3,639,518
土地	4,857,539	4,857,539
その他(純額)	56,029	49,996
有形固定資産合計	8,677,375	8,547,054
無形固定資産	602	430
投資その他の資産		
投資有価証券	129,782	147,161
差入保証金	640,751	549,444
その他	247,717	245,072
投資その他の資産合計	1,018,251	941,678
固定資産合計	9,696,229	9,489,162
資産合計	10,759,522	10,729,204
負債の部		
流動負債		
買掛金	86,273	65,007
短期借入金	2,952,250	3,022,300
未払法人税等	45,775	6,747
賞与引当金	8,400	7,200
資産除去債務	-	280,000
その他	392,558	316,465
流動負債合計	3,485,258	3,697,719
固定負債		
長期借入金	287,500	237,500
長期未払金	67,544	67,544
繰延税金負債	16,777	22,095
再評価に係る繰延税金負債	91,618	91,618
退職給付引当金	466,162	447,881
その他	23,305	23,305
固定負債合計	952,909	889,945
負債合計	4,438,167	4,587,665

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年2月28日)	当第2四半期会計期間 (2023年8月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,572,092	50,000
資本剰余金	6,561,688	9,083,780
利益剰余金	△1,335,238	△1,527,116
自己株式	△10,148	△10,148
株主資本合計	7,788,393	7,596,515
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	38,051	50,112
土地再評価差額金	△1,505,089	△1,505,089
評価・換算差額等合計	△1,467,037	△1,454,976
純資産合計	6,321,355	6,141,538
負債純資産合計	10,759,522	10,729,204

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自2022年3月1日 至2022年8月31日)	当第2四半期累計期間 (自2023年3月1日 至2023年8月31日)
売上高	1,537,968	2,223,378
売上原価	779,458	914,116
売上総利益	758,510	1,309,261
販売費及び一般管理費	1,210,436	1,188,310
営業利益又は営業損失(△)	△451,926	120,951
営業外収益		
受取利息	3	3
受取配当金	2,435	2,587
助成金収入	141,932	-
その他	1,138	4,891
営業外収益合計	145,509	7,482
営業外費用		
支払利息	11,951	12,808
設備休止費用	9,200	9,232
その他	1,720	2,197
営業外費用合計	22,873	24,238
経常利益又は経常損失(△)	△329,290	104,195
特別利益		
助成金収入	10,772	-
特別利益合計	10,772	-
特別損失		
固定資産除却損	-	620
減損損失	8,243	280,917
店舗閉鎖損失	65,000	7,787
臨時休業等による損失	56,309	-
特別損失合計	129,553	289,325
税引前四半期純損失(△)	△448,070	△185,130
法人税、住民税及び事業税	7,957	6,747
法人税等調整額	-	-
法人税等合計	7,957	6,747
四半期純損失(△)	△456,028	△191,877

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)	当第2四半期累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純損失(△)	△448,070	△185,130
減価償却費	159,897	129,866
賞与引当金の増減額(△は減少)	△21,200	△1,200
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△37,872	△18,281
受取利息及び受取配当金	△2,438	△2,591
支払利息	11,951	12,808
固定資産除却損	—	620
減損損失	8,243	280,917
店舗閉鎖損失	65,000	7,787
助成金収入	△152,704	—
売上債権の増減額(△は増加)	△79,439	13,227
棚卸資産の増減額(△は増加)	△6,179	△2,413
仕入債務の増減額(△は減少)	20,377	△21,266
未払金の増減額(△は減少)	△17,379	△30,951
その他	4,680	△76,151
小計	△495,135	107,242
利息及び配当金の受取額	2,438	2,591
利息の支払額	△11,892	△12,884
助成金の受取額	272,536	—
法人税等の支払額	△37,964	△15,244
営業活動によるキャッシュ・フロー	△270,016	81,703
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△300	△291
差入保証金の差入による支出	△59	△67
差入保証金の回収による収入	4,379	4,022
保険積立金の積立による支出	△9,329	—
店舗閉鎖等による支出	—	△20,629
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,309	△16,965
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	400,000	100,000
長期借入金の返済による支出	△86,200	△79,950
自己株式の取得による支出	△3	—
その他	△14	△2
財務活動によるキャッシュ・フロー	313,782	20,047
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	38,456	84,785
現金及び現金同等物の期首残高	549,521	727,284
現金及び現金同等物の四半期末残高	587,978	812,069

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積りについて)

前事業年度の有価証券報告書の(重要な会計上の見積り)に記載した新型コロナウイルス感染症の影響に関する仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期累計期間(自 2022年3月1日 至 2022年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント		
	飲食業	賃貸業	計
売上高			
宴会	588,570	—	588,570
婚礼	385,365	—	385,365
Grill	414,973	—	414,973
売店他	53,873	—	53,873
顧客との契約から生じる収益	1,442,783	—	1,442,783
その他の収益(注1)	5,136	90,048	95,184
外部顧客への売上高	1,447,919	90,048	1,537,968
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	1,447,919	90,048	1,537,968
セグメント利益又は損失(△) (注2)	△475,621	23,694	△451,926

(注) 1. その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号)に基づく不動産賃貸収入であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期損益計算書の営業損失(△)と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

当第2四半期累計期間(自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント		
	飲食業	賃貸業	計
売上高			
宴会	1,200,301	—	1,200,301
婚礼	356,037	—	356,037
グリル	519,011	—	519,011
売店他	49,660	—	49,660
顧客との契約から生じる収益	2,125,011	—	2,125,011
その他の収益(注1)	5,136	93,230	98,366
外部顧客への売上高	2,130,147	93,230	2,223,378
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	2,130,147	93,230	2,223,378
セグメント利益(注2)	79,312	41,639	120,951

(注) 1. その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号)に基づく不動産賃貸収入であります。

2. セグメント利益の合計額は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「飲食業」セグメントにおいて、店舗の閉店が決定されたことに関連して、減損損失を特別損失に計上しております。なお、当該減損損失計上額は280,917千円であります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当第2四半期累計期間において、新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行等も有り、売上高が一定程度回復し営業利益の黒字化となったものの、前事業年度までは継続して営業損失を計上しており、通期の売上高、営業損益については不確実な状況が続いております。さらに、当第2四半期会計期間末の流動負債に計上している借入金残高3,022百万円は手元流動資金812百万円に比して高い水準にあることから、現時点においては継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

しかしながら、当社の当第2四半期会計期間末の現金及び預金の残高に加え、2020年6月の3,000百万円の当座借越枠の設定及びその後の契約更新により、合計で当座借越の未実行残高2,515百万円と当面の資金を確保しております。また、取引先金融機関に対して継続的な資金支援を要請していることから、重要な資金繰りの懸念はありません。従って、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。

なお、当該事象又は状況の解消のため、コスト圧縮の対策を実行すると共に、宴会等の自粛の代替案としてホームパーティーや大切な方への贈り物、企業の忘新年会・歓送迎会・打上げ代わりのお食事など新しい生活様式でもお届けできる商品としてご家庭で味わえる「おうちで東天紅」の販売も2年が経過し、メニューの充実化に力を入れ、EC事業の販路拡大に取り組んでおります。また、原油などのエネルギー資源や原材料価格の高騰を受け、2022年9月よりメニューの見直しと価格改定を行い、原価率の改善に取り組んでおります。さらに、ネット媒体対応の強化、空間ビジネス等様々な販売チャネルの拡大に取り組んでおります。